



古代歌謠集

全

(岡山製本)

大正四年四月二十日印刷
大正四年四月廿三日發行

有朋堂文庫
古代歌謠集
(非賣品)

不許複製

編輯兼
發行者

三浦理

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者

平井登

東京市本所區番場町四番地

印刷所

凸版印刷株式會社分工場

東京市本所區番場町四番地

發行所

有朋堂書店

東京市神田區錦町一丁目十九番地

緒言

本集は太古より近古に至る謠ひ物の代表文學を系統的に輯録し、題して古代歌謠集と云ふ。即ち古事記及び日本書紀載する所の歌謠を首めとして、郢曲と總稱する所の神樂、催馬樂、東遊、風俗、今様、雜藝、朗詠より、降りて宴曲、延年唱歌に及べり。

紀記の歌は、専ら江戸の人、林諸鳥の編せる紀記歌集を採り、傍ら契沖阿闍梨の厚顔抄、本居宣長の古事記傳、荒木田久老の日本紀歌之解などに據りて頭註を加へたり。紀の歌は、其の題材概ね單純、詞藻極めて幼稚淳朴にして、詩形句格亦頗る區々なれども、萬葉集に於ける短歌、長歌、旋頭歌等の源泉として、我が韻文史上に逸すべからざるもの也。

神樂又神あそびは神祇を祭る舞樂にして、その謠ひ物を神樂歌と稱し、古くより世に傳はれり。其の譜は一條雅信公の定むる所なりといふ。催馬樂は其の名義數説あり、要するにもと路頭巷里の謠歌にして、當時の風俗人情の反映せるものと稱すべし。其の譜は同じく雅信公の所作と傳ふ。右の二書は橘守部の入綾に據りて本文を立て、傳承の異同の如きも、

亦同書に準じイとして之を示し、頭註亦多くは之れを参考せり。されど古くは梁塵愚案抄より、賀茂真淵の神樂歌考、催馬樂考までをも合せ勘へたり。

東遊又東舞ともいふ、東國の風俗にあはするが故の名也。其の歌神樂歌の類に過ぎず。風俗歌は諸國の俚謠とおほしく、催馬樂の歌と性質を同じうす。守部は催馬樂の撰定に漏れたる類ならんと説けり。右の二書は群書類從管絃部に收めたる本文に據り、今非似閑の萬葉緯、賀茂真淵の神遊考、風俗歌考等を参考して略注を加へたり。

今様は新しき風の歌の義にして、和讚の流れと見るべく、後には句格整ひて七五調四拍子となれり。宴遊に用ひられし様諸書に見ゆ。

雜藝と稱するは、五節の謠ひ物の類にて、何くれとなく數々傳はれり。今古き舟歌、田植歌の類をも之れに附加して收めたり。今様と共に伴信友の中古雜唱集より抽出す。

朗詠は和漢文人の詩文につきて、主として雅興豊かなる駢儷の句を朗吟するものの謂にして、上流の間に行はれし様物語書などに見ゆ。和漢朗詠集は藤原公任の撰にして、古來最

も多く行はる。新撰朗詠集は藤原基俊の撰也。今此の二書は流布刊本を收め、前者は古註數種を参考して本文を訂し、略註を加へ、後者は群書類從管絃部所收の書と對校せり。宴曲は朗詠及び今様の亞流にして、而も長編として發達し、用語、句法、題目、内容共に著しく鎌倉時代文學の特徴を發揮せり。浮屠明空の徒の作歌調曲に成る。歌唱の系統は聲明道の影響なるべきか。續群書類從遊戲部に收むるもの、宴曲集五卷、宴曲抄三卷、眞曲抄、究百集、拾菓集二卷、拾菓抄、別紙追加曲、玉林苑二卷あり。曲目百六十一を算す。嘗て吉田東伍氏と共に數種の古寫本を以て對校したる總集を剗削に附したる事あり。今其の中について七十番を選出し、最今發見の善本に據り、本文を訂してことに之を收め、私注を首書としたり。

延年は、主として南都北嶺に行はれたる僧家の舞樂にして、もと祝言の意を寓するものなること、その名已に然り。その役柄、詞、歌、さては舞の手ぶり等、後の猿樂能に著しく影響せり。今傳はる所の興福寺延年舞式によりて、ことに其の詞書及び歌謠を收めたり。因

みに、宴曲及び延年唱歌は、其の墨譜今日尙現存せる事、亦我が音楽史上最も重要な事といふべし。

大正四年四月

校訂者 野村 八良

古代歌謠集 目錄

紀記歌集

一八八

日本紀神代上一首	三
同神代下五首	三
同神武紀八首	五
同崇神紀六首	九
同景行紀五首	二一
同神功皇后紀六首	二四
同應神紀八首	二七
同仁德紀二十三首	三〇
同允恭紀七首	三〇
同安康紀二首	三三
同雄略紀九首	三三
同顯宗紀四首	三六

同武烈紀九首	四〇
同繼體紀四首	四三
同欽明紀二首	四六
同推古紀三首	四七
同舒明紀一首	四八
同皇極紀七首	四九
同孝德紀二首	五二
同齊明紀八首	五三
同天智紀五首	五五
古事記上四首	五八
神武天皇段七首	六三
景行天皇段八首	六五
應神天皇段三首	六九
仁德天皇段九首	七一
履仲天皇段二首	七四
允恭天皇段七首	七五
雄略天皇段十二首	七八

清寧天皇段四首……………八五

神樂歌

八九—二八

庭燎……………八九

阿知女作法……………八九

採物……………九〇

櫛……………九〇

或說……………九〇

幣……………九一

杖……………九一

或說……………九二

篠……………九二

或說……………九三

弓……………九三

或說……………九四

劔……………九四

或說……………九五

銚……………九五

杓……………九六

片折……………九六

諸舉……………九七

韓神……………九七

或說……………九八

大前張……………九八

宮人……………九九

難波湯……………九九

木綿志天……………九九

前張……………一〇〇

階香取……………一〇〇

井奈野……………一〇一

脇母古……………一〇一

小前張……………一〇一

薦枕……………一〇二

閑野……………一〇三

磯等	一〇三
篠波	一〇四
殖槻	一〇四
總角	一〇五
大宮	一〇五
湊田	一〇六
荃	一〇六
或說	一〇六
千歲	一〇七
早歌	一〇七
明星	一一一
吉々利々	一一二
得錢子	一一二
木綿作	一一三
晝目歌	一一三
或說	一一四
弓立	一一四

催馬樂

朝倉	一一五
或說	一一五
其駒	一一六
或說	一一六
竈殿歌	一一六
酒殿歌	一一七
或說	一一七
律	一一九
我駒	一一九
澤田川	一二九
高砂	一二〇
夏引	一二一
貫河	一二三
東屋	一二三
走井	一二三

飛鳥井……………一二三

青柳……………一二三

伊勢海……………一二四

庭生……………一二四

我門爾……………一二四

我門乎……………一二五

大路……………一二五

大芹……………一二六

淺水……………一二六

插櫛……………一二六

鷹子……………一二六

逢路……………一二七

道口……………一二七

更衣……………一二七

何爲……………一二七

鷄鳴……………一二八

老鼠……………一二八

隱名……………一二八

呂……………一二九

安名尊……………一二九

新年……………一二九

梅枝……………一三〇

櫻人……………一三〇

葦垣……………一三一

山城……………一三一

眞金吹……………一三三

紀伊國……………一三三

葛城……………一三四

竹河……………一三五

河口……………一三五

此殿者……………一三五

此殿西……………一三六

此殿奧……………一三六

鷹山……………一三七

美作	一三七
藤生野	一三八
妹與我	一三八
淺綠	一三六
青馬	一三九
妹之門	一三九
席田	一三九
大宮	一四〇
總角	一四〇
本滋	一四〇
美濃山	一四〇
眉止之女	一四一
酒飲	一四一
田中井戶	一四一
無力蝦	一四一
難波海	一四二
鈴之川	一四二

東 遊

石川	一四二
奥山	一四三
奥々山	一四三
我家	一四三

一四五—一四六

風 俗

駿河歌	一四五
求女子歌	一四六
於保比禮	一四六

一四七—一五四

小筑波	一四七
小由流支	一四七
玉垂	一四七
鴛鴦	一四八
之太乃浦	一四八
君乎置天	一四八

越方	一四八
小車	一四九
陸奥	一四九
甲斐	一四九
常陸	一四九
同	一四九
筑波山	一五〇
月面	一五〇
大鳥	一五〇
奈末不利	一五〇
荒田	一五一
東路	一五一
菅牟良	一五一
知々良々	一五一
我門	一五一
乎之高倍	一五二
伊勢人	一五二

今 様

一五五—一六四

加比加禰	一五二
鳴高	一五三
八乎止女	一五三
彼乃行	一五三
春の初	一五五
蓬萊山	一五五
りやうぜんみやま	一五五
ふるき都	一五六
よろづの佛の	一五六
君をはじめて	一五六
佛も昔は	一五六
君があげこし	一五七
心のやみの	一五七
はくろは	一五七
佛の方便	一五七

さまも心も……………	一五八
月も同じ……………	一五八
ありのすさびの……………	一五八
わかれのことに……………	一五八
春はさくらの……………	一五八
あたりの野邊の……………	一五九
月影のみ……………	一五九
別のことさら……………	一五九
をさまりなびく……………	一五九
信濃にあるなる……………	一六〇
竹のよなかば……………	一六〇
よしなの我等が……………	一六〇
心の内には……………	一六〇
薬師の十二の……………	一六一
ませのうちなる……………	一六一
像法轉の……………	一六一
四大聲聞……………	一六一

雑

藝

熊野にまします……………	一六二
ちはやぶる神……………	一六二
春のはじめ……………	一六二
峰の嵐の……………	一六二
松の木蔭に……………	一六三
大宮権現……………	一六三
鬢多々良……………	一六五
思之津……………	一六五
物云舞……………	一六五
水猿曲……………	一六七
伊佐立奈牟……………	一六八
白薄様……………	一六八
春の野……………	一六八
國のかた……………	一六九
川そひ柳……………	一六九

和漢朗詠集

一七二—二九二

卷上

ほととぎす	一六九
夜は誰と	一六九
又	一六九
春	一七一
立春	一七一
早春	一七二
春興	一七三
春夜	一七四
子日 附若菜	一七五
若菜	一七六
三月三日 附桃	一七七
桃	一七八
暮春	一七八

三月盡	一七九
閏三月	一八〇
鶯	一八一
霞	一八二
雨	一八三
梅 附紅梅	一八四
紅梅	一八五
柳	一八六
花 附落花	一八八
落花	一九〇
躑躅	一九一
歎冬	一九一
藤	一九二
夏	一九二
更衣	一九三
首夏	一九三
夏夜	一九四

端午	一九四
納涼	一九五
晚夏	一九六
花橘	一九七
蓮	一九七
郭公	一九八
螢	一九九
蟬	二〇〇
扇	二〇一
秋	二〇二
立秋	二〇二
早秋	二〇三
七夕	二〇三
秋興	二〇四
秋晚	二〇六
秋夜	二〇六
八月十五夜 附月	二〇七

月	二〇九
九日 附菊	二一〇
菊	二一一
九月盡	二一二
女郎花	二一三
萩	二一三
蘭	二一四
槿	二一五
前栽	二一五
紅葉 附落葉	二一六
落葉	二一七
雁 附歸雁	二一九
歸雁	二二〇
蟲	二二〇
鹿	二二一
露	二二一
霧	二二一

擣衣.....二三三

冬.....二三四

初冬.....二三四

冬夜.....二三五

歲暮.....二三五

爐火.....二三六

霜.....二三六

雪.....二三七

冰 附春冰.....二二九

春冰.....二二九

霰.....二三〇

佛名.....二三〇

卷 下

雜.....二三三

風.....二三三

雲.....二三三

晴.....二三四

曉.....二三五

松.....二三六

竹.....二三七

草.....二三八

鶴.....二二九

猿.....二四一

管絃 附辨妓.....二四二

文詞 附遺文.....二四三

酒.....二四四

山 附山水.....二四六

山水.....二四七

水 附漁父.....二四九

禁中.....二五〇

古京.....二五一

故宮 附故宅.....二五二

仙家 附道士隱倫.....二五三